株式会社アーツエイハン

カメラと AI の先に、新しいビジネスを

映像制作×顔認識 AI が創る、コミュニケーションの未来

株式会社アーツエイハンは、映像制作の世界で 30 年にわたる歴史を持つクリエイティブ企業です。
代表取締役の飯塚氏は 25 歳の時から映像制作の第一線で活躍し、プロモーション映像やウェブ制作、展示会の企画・運営など、多角的に事業を展開してきました。同社は単なる映像制作会社にとどまらず、映像とデジタル技術を融合させることで、クライアントのメッセージをより効果的に伝える手法を常に模索し続けています。近年では、AI を活用した顔認識システム「BeeSight」シリーズを開発し、通行人の性別や年代、さらには「笑顔」や「幸福度」といった感情を数値化する独自のソリューションを提供しています。

専門知識とクリエイティブな発想で常に新しい価値を提供する同社が、本事業をどのように活用したのか、代表取締役 飯塚 吉純 様にお話を伺いました。

企業名：株式会社アーツエイハン
本社：東京都新宿区新宿 1-18-13
代表者：飯塚 吉純
企業 HP：https://eihan.com/

Q. どのようなきっかけで本事業に参加しましたか。

本事業に参加した最大の目的は、映像・ウェブ制作を中心とした既存の事業と、顔認識システムという先端技術を扱う事業を、経営戦略としていかに統合し、相乗効果を生み出すかにありました。これまで、映像制作を主軸とする当社と、システム開発を担う関連会社の事業はそれぞれ独立して動いており、組織全体としてのシナジーが十分に発揮されているとは言えない状態でした。自社の誇る映像表現力と AI によるデータ計測技術を高度に組み合わせ、顧客に対してより具体的で付加価値の高いマーケティング・ソリューションを提供できる体制を整えたいと考えました。また、コロナ禍を経て社会のデジタル化が加速する中、30 年培った事業を現代のニーズに合わせて再定義し、次世代に向けた強固な事業計画を再構築することが、変革への大きな一歩となりました。

Q. 貴社の取り組みに対してどのような支援がありましたか。

アドバイザーの支援を受け、まず事業計画の再構築に取り組みました。映像制作と AI 技術という異なる領域をいかに結びつけ、市場で優位性を築くかという戦略を具体化していきました。システム面では、顔認識システム「BeeSight」の機能拡張を重点的に実施しました。特に、カメラを通じて得られる「笑顔」のデータをリアルタイムで数値化する機能の高度化を図り、商業施設やタクシー車内のサイネージといった実際の現場で、広告の視認効果や人流の属性を分析する実証実験を繰り返しました。
さらに、事業変革を学ぶスクールセッションでは、異業種の経営者と議論を行い、経営の根幹となる事業計画の立案方法やキャッシュフローの重要性を学びました。加えて、外部の AI スタートアップ企業とのマッチングも検討し、自社技術の拡張性と外部連携の可能性を広げる試みも行われました。

Q. 本事業に参加して得た成果はありますか。

本事業に参加した結果、これまでの「映像制作」から、「データという根拠に基づいた提案ができるソリューション企業」へと、その立ち位置を明確に変えることができました。アドバイザーとの対話を通じて事業計画が磨かれたことで、自社サービスの市場優位性が整理され、顧客への提案力が飛躍的に向上しました。特に「笑顔」を数値化する技術は、テレビ番組でも取り上げられ、大きな反響を呼びました。また、タクシーサイネージへの導入も決定し、ターゲットを絞った高度なデータマーケティングツールとしての実績を確立しました。
本事業のスクールや異業種交流会では、普段接点のない製造業などの経営者との交流を通じて自社の方針の参考にすることができまし

た。不測の事態にも動じない安定した経営基盤の重要性を再認識できたことも大きな収穫となりました。
また、アドバイザーの支援のもと市場調査を行い、大手 IT 企業と比較しても、自社のシステムが特定の用途においては優れた柔軟性とコストパフォーマンスを誇ることを客観的に確信できたことも収穫でした。当社は「映像制作のプロ」としての視点を持ち、かつ安価な端末でも高度な処理を完結させるエッジ処理技術を確立しているため、現場のニーズに寄り添った機動的な提案ができるといった強みを明確化することができました。

Q. 今後の展開について教えてください。

今後は、映像のクリエイティビティと AI テクノロジーの融合を加速させていきます。顔認識システムで得られた膨大な視聴データを、映像制作の工程へ直接フィードバックする仕組みを構築していきます。「どのような映像が、どの層に、どのような感情を抱かせたか」をリアルタイムで可視化することで、感覚に頼らないコンテンツ制作を追求する方針です。
また、「組織の若返り」も最重要課題の一つに掲げられます。急速に変化するデジタル領域において、若い世代の感性を積極的に取り入れ、彼らが主体となって事業を推進できる環境を整えていきます。他社の活気あるプレイヤーとの対等な渡り合いを目指し、社内の IT リテラシーと営業力を一段引き上げる計画です。
さらに、顔認識システムを活用し、社会課題の解決に貢献する新機能の開発も視野に入れています。映像制作に次世代の AI 技術を融合し、これからもカメラの先に広がる新しいビジネスチャンスに挑み続けていきます。

アドバイザーからのコメント

株式会社アーツエイハン様の支援を通じて強く印象に残ったのは、30 年にわたり培われてきた「映像制作の感性」と、AI による「データ活用」を本気で融合させ、新たな事業価値を創出しようとする姿勢です。飯塚代表は長年、第一線のクリエイターとして活躍されてきた一方で、社会や技術の変化を冷静に見据え、既存事業を再定義する必要性を明確に認識されていました。本事業への参加は、その覚悟を具体的な戦略と行動に落とし込む大きな転機だったと感じています。伴走支援の中では、映像制作と AI 技術という一見異なる領域を、単なる並列事業ではなく「統合されたソリューション」として成立させるための事業計画づくりに注力しました。特に顔認識システム「BeeSight」においては、「笑顔」や感情を数値化する独自性が、広告効果測定や人流分析といった実ビジネスに直結する強力な武器であることが整理されました。現場実証を重ねる中で、タクシーサイネージなど具体的な導入実績へと結び付いた点は、同社の技術と企画力の高さを象徴しています。また、スクールでの学びや異業種経営者との交流を通じ、キャッシュフローや事業ポートフォリオを意識した経営視点が一段と強化されました。これにより、アーツエイハン様は「映像をつくる会社」から、「データに裏付けられた提案ができるマーケティング・ソリューション企業」へと明確に立ち位置を変えています。クリエイティブとテクノロジーを両立できる稀有な存在として、今後、映像業界のみならず幅広い分野で価値を発揮していくことを、担当アドバイザーとして大いに期待しています。